

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源

Agresh

2020. VOLUME.120

3

あぐれっしゅ



10周年 感謝を忘れず、
この先も共に



特集
めざましい進化！
スペインの農業事情

「みんなのよい食プロジェクト」とは、これからの日本人にとって「よい食」とは何かを、日本の農家とJAグループ、消費者のみなさんと一緒に考えて、実現していく運動です。



腕 じ ま ん

地域じまんのモノ語り



地元食材で料理教室
～女性部横浜町支部～



JA女性部横浜町支部は2月20日、町内の交流館で料理教室を開きました。参加部員10人は、冠婚葬祭に振る舞われる伝統の「クジラ汁」のほか、地元食材を使って手軽に作れる「ナガイモ春巻き」「ホタテ照り煮」「煮あえっこ」の計4品に挑戦。最後は全員で試食しました。内山咲喜子支部長は「みんなで集まり楽しく、料理もおいしく仕上がった。子どもたちにも伝えていきたい」と話しました。

ここでは「ナガイモ春巻き」とAコープマーク品「食彩酢」を使った「ホタテの照り煮」の2品を紹介します。



クジラ肉の白身とワラビ、フキ、地元の野菜が入った伝統の「クジラ汁」

おすすめ料理 ナガイモ春巻き

材料(4人分)

ナガイモ…… 600g	春巻きの皮…… 8枚
鶏ささみ…… 2本	揚げ油…… 適量
水溶き小麦粉…… 適量	塩・胡椒…… 少々
梅干し…… 8個	大葉…… 8枚

作り方

- ① ナガイモをよく洗い、皮をむいて細切りにする。
- ② 鶏ささみは縦に4等分に切る。
- ③ 梅干しは種を取り包丁で叩いてペースト状にする。
- ④ 春巻きの皮のつるつるした方を上にして、角が手前になるようにまな板の上に置き、鶏ささみ・ナガイモ・梅干しを乗せ一巻きしたら大葉を乗せてさらに巻く。
- ⑤ 水溶き小麦粉で閉じ、160℃の油で揚げる。
- ⑥ 焼き色がついたら箸で転がしながら仕上げは高温にしてカラッと揚げる。



ホタテ照り煮

材料(4人分)

ホタテ…… 8枚
食彩酢

作り方

- ① ホタテはボイルして、ウロを取っておく。
- ② フライパンにホタテを並べて食彩酢を入れ、汁気がなくなるまで煮つめる。

食彩酢は、はちみつ入りで、まろやかな味わい。マリネ、煮物、照り焼きなど幅広く使用できます。ご購入は各支店購買窓口でお尋ねください。希望小売価格499円(360ml・税込)



公式Facebook
JA十和田おいらせ

令和2年3月10日発行 ■発行/十和田おいらせ農業協同組合 〒034-0081 青森県十和田市西十三番町4-28 TEL.0176-23-0311 FAX.0176-24-1820
■編集/JA十和田おいらせ 広報編集委員会 ■公式ホームページ <http://www.jatowada-o.or.jp> ■Email/soumu@jatowada-o.or.jp ■印刷/アート印刷

次回外務予定日 令和2年4/10(金)～14(火)

表紙紹介

● シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.91

けいしょうびと

継承 × 人

むつ支店管内

はら こうへい
原 広平さん(34)

最強の乳製品づくり目指す

（有）斗南丘牧場と「ミルク工房ボン・サーブ」を営む父親の片腕となり、同社部長として自社の乳製品の営業と牛の管理に日々奮闘する。良質な生乳生産、牛にとってストレスのない環境づくりに力を注ぐ。より健康になれて、よりおいしい「最強の乳製品を作りたい」の夢に向かって一歩ずつ前進している。

自分の力を試したい

酪農家4代目。東京農業大学卒業後、会社勤めを経て2015年、自分の力を試してみたいと就農した。乳牛80頭、子牛20頭の世話を手伝い、工房ではヨーグルトなどを製造、販売する従業員9人を束ねる。3年前、牛の飼養や健康管理、乳製品の製造方法を細かく数値化し、マニュアル化した。どの従業員にも分かりやすくし、牛にとってストレスフリーの環境を与えることで良質な生乳生産につなげている。

濃厚、コクのある深い味わい

搾りたての生乳はその日のうちに加工を開始する。鮮度を保ち、生乳本来のおいしさ、製造技術の高さで、商品それぞれにうまさを引き出す。工房で販売されるソフトクリーム・のむヨーグルト・アイスクリームは濃厚で、コクのある深い味わいが特徴だ。



令和2年2月20日 撮影

また、2015年から販売を開始した「+PGプロテオグリカンのむヨーグルト」は、評判が口コミで広がり、女性を中心に定期購入の契約者が増えている。「顔の見える販売がしたい」の考えのもと、県内各地での営業効果もあり、現在では毎週3千本を販売するほど。



探究し続ける

同社の経営理念は「いのち輝く会社経営」。「牛をどう輝かせるか。お客様に、お役立ち出来るかを常に考えていきたい」と力を込める。「経営はまだまだ改善が必要」と話す広平さん。さらなる良質な生乳づくりを探究し続ける。

プロフィール…はら こうへい むつ市田名部
組合員=英輔さん(父)
家族構成/父、母
農業経営/乳牛80頭、子牛20頭

食農教育のイベント開催、地域の雇用創出などで、斗南丘牧場は2020年、「青森県攻めの農林水産業賞の農山漁村づくり部門」で大賞を受賞している。

告知

総務部 4/1(水)から営業時間が下記の通り変更になります。

営業時間:8:00~17:00 期間:2020年10月31日まで
※詳細については外務チラシでお知らせします。

総務部 臨時総代会を開催します!

日時:令和2年3月17日(火)午前11時より
(受付:午前10時より)
場所:JA本店 3階大会議室

提出議案

議案第1号 穀類乾燥調製貯蔵施設新設に係る国庫補助事業申請について
議案第2号 固定資産の取得の変更について

金融部 ローン相談会(本支店のご案内)

毎月第3日曜日 9:00~15:00

3月 15日	相談会場 本店・下田支店 上北支店・むつ支店	4月 19日	相談会場 本店・下田支店 七戸支店・むつ支店
-----------	------------------------------	-----------	------------------------------

お得な住宅ローン・自動車ローンのキャンペーン実施中です!(3/31まで)

農業機械・農業に関わる設備資金等の相談も承ります。24時間365日受付中

各種ローンを取り扱いしております。会社員の方、自営業の方、JAとのお取引がない方もお気軽にご相談ください。

各種ローンがネットで仮申込みできます。申込み方法は「JAネットローン」で検索!!

共済部

自動車共済

若者を応援するJAからお得なお知らせです!
JAの自動車共済
新規加入(6~7等級)の共済掛け金がお得に

令和2年1月より6・7等級の共済掛金の見直しを行いました。
お見積りみの試算、保障内容等、本支店窓口でお気軽にお尋ねください。
JA共済のキャンペーンwebサイト(<http://car-cp.ja-kyosai.or.jp>)でもお見積りりができます。

○掛け金はどれくらいかな? ○安く契約できる方法はないかな? ○どんな保障があるの?

もくじ contents

あぐれっしゅ vol.120 3

(弥生・やよい)

特集 4~6p

めざましい進化!スペインの農業情勢
~視察研修レポート~

告知版 2p

継承人 3p

NEWS&TOPIC 地域の話 7p

あぐれっしゅ情報① 11p

あぐれっしゅ情報② 12p

ふれあい広場
頭の体操 パズル? 13p

information 14p

腕じまん
地域じまんのモノ語り 16p

JAの概況 令和2年3月1日現在
正組合員数/6,523人
准組合員数/5,244人
役員数/25人
職員数(准職・嘱託含)/280人
貯金高/800億5,677万円
貸出高/172億 4,256万円

2月号の概況に誤りがありました。
正)正組合員数/6,522人
准)准組合員数/5,235人

めざましい進化！ スペインの農業事情

レポート... 営農経済担当常務 斗澤康広



特集

日本の量販店で販売されている「スペイン産にんにく」はラマンチャ地区のコーパマン農協が生産。24000畝の面積で収量は1200トン/10ヘクタールと当JAの収量(種子込み)と同程度で、紫ニンニクや黒ニンニクも開発・販売している。すべてグローバルGAP認証で生産している強みがある。

管内には22の選果場があり、自社基準で選別、パッケージやOEM(他社ブランド製造)対応も含めた選果システムを確立している。品目に特化した選果場はコスト削減にもつながるため、年々加盟農協が増えている。

出資金等は総会で決定し、100%出荷することが、加盟の条件となっている。各農協や生産者は連合会に加盟してから農業所得が増えたと高評価である。

連合会ではヒスパテック社が開発した情報管理ツール(ERP)を構築した。生産者、営農指導員が携帯やタブレットに入力したデータを連合会の営業部が、スーパーの販売予測システムに販売量、単価等を当てはめていく。そこで残ればまた新しい販売先を見つけていくなど、販売については、100%連合会が責任を持つシステムとなっている。

昨年11月17日から25日の9日間「世界のGAP先進地視察研修ツアー」に参加した。スペインの東南地方にあるビニールハウス群が密集するアルメリア地区。EU域内を中心に夏野菜の輸出しているアルメリア市とエレヒド市、グラナダ市を視察した。



アルメリア大学 アルメリア地区のハウス群

スペイン農業

アルメリア県の人口は18万人でそのうち農業人口は75%の13万5千人。トマト、パプリカ、スイカ、メロン、ズッキーニ、ナス、インゲン豆等で3600億円の販売額がある。また、農業以外の資材、ハウス、散水装置の売上が現在2400億円あるが、将来は農産物の販売額よりも上回る勢いである。農家の平均耕作面積2.5ヘクタールで、企業の生産者は少なく2万人の生産者がいる。

パプリカ農場



アルメリア大学

営農指導員の育成

アルメリア県の農業に関する研究に力を入れ、農家と共同で農業に関する90%の研究を実施。研究結果は情報共有しており、そのうち営農指導員の教育・育成につなげている。

現在アルメリア県には1300人の営農指導員が活動しており、アルメリア大学出身が98%である。当大学のシステムは4年制で営農指導員の資格を習得し、農協職員や公務員として活動、その就職率は100%。3年でドクター、2年でマスターの資格(農場認証)を取得し、アルメリア県や南米、モロッコ(北アフリカ)、中国等からも入学している。専門は4部門あり、①農業のインフラ研究②オリブ、小麦、ひまわり、家畜の専門③園芸野菜(当大学の70%を占める)④加工品の商品開発等。段階的にビッグデータの活用、IT、デジタル化、農業政策も入れている。12畝の農場は大学50%、農協50%が出資する財団で運営、研究プログラムは農協が支援している。

営農指導員が生産履歴を効率よく管理【農業協同組合】



コプロニハル選果場

視察した農協の1例として「コプロニハル」農協を紹介する。この農協は、組合員数200人で、正組合員が160人、トライアル中の准組合員が40人いる。総面積は500ヘクタール(平均2.5ヘクタール/戸)。組合のあるニハル地区は比較的气温が低く、土壌や用水の塩分濃度が高いため甘みが強いトマトができる。農家の8割がトマトを栽培。特に食味の良いチェリートマトの生産が主体で収量は平均14.5トン/10アールで栽培は周年で行われ、チェリーや黄オレンジ等カラフルな品種を栽培している。

年間出荷量は6万トンで90%をイギリスやドイツに販売しており、販売金額は72億円。チェリートマト60~70%、25%がスイカ、メロン。有機栽培が33%でその他はIPM栽培(天敵害虫を取り入れ、化学農薬を減らしている)を実践している。

加盟している連合会は「アネコープ」連合会(バレンシアに本部を置く)に属しており、40%がアネコープ、60%が直接販売だが、将来アネコープを通じての販売を増やしていく計画である。

農協は農家に対し、①品質管理、食品安全の指導や認証取得の支援(グローバルGAP含む)、②営農指導員を通じて生産技術指導、新品種情報の提供や防除対策(IPM農法等)など、③被覆資材や肥料・農薬等生産資材及び出荷資材等の購買④補助金情報や法律的な支援など。手数料は正組合員6%、トライアルの准組合員は9%。日本と大きく異なる点は、正組合員も准組合員も全量(100%)農協出荷が義務付けられている。

8人の営農指導員が200人の生産者に対応。営農指導員や品質管理者を含む人材育成と選果場への投資が積極的に行われている。

この農協では現在稼働している2.2ヘクタールの選果場と有機栽培専用の1.2ヘクタールの選果場を新設しており、面積は小さいが機能は現在稼働している選果場の能力に匹敵する。グローバルGAP等、各種認証費用は農協で負担している。その他の認証も営農指導員と品質管理担当者が対応しERPシステムで管理。認証費用(グループ認証:オプシオン2)は、年間1戸当たり千円~1万円程度で、当JAの生産組織の年間部会費程度の費用に驚いた。その背景からスペインにおけるグローバルGAPの普及率の高さに納得した。

ロットの確保とマーケティング活動【連合会】

UNICA連合会はアルメリア、グラナダ地区で一番大きい連合会。2009年に農産物の有利販売を目的に、アルメリア、グラナダ地区の5農協とオーガニックでトマトを栽培する巨大企業等が合併して誕生した。オーガニックと普通栽培のトマトは連合会の販売部門が担当。ドイツを中心にEUに85%、EU以外には5%の割合で販売展開している。

現在はオレンジやみかんの販売も手掛けているほか、各農協で重複する品目など、アルメリア県やスペイン全体で16農協が加盟し、一括して販売活動をしている。販売方法は各農協単位で営業するのではなく、ユザーが欲しいものを連合会がまとめて注文を受ける仕組みをとっている。

品目別順位は、1位:パプリカ 2位:トマト 3位:きゅうり 4位:スイカ 5位:メロンとなっている。連合会は、組合員5000人、面積9000ヘクタール、選果場作業員5000人、事務所100人、農場で12000人働いている。近年は、火を通さず生で食べられる野菜や専用ソースといろいろな野菜をパックにして加熱するだけで食べられる商品も開発している。EUも共働者が多く、簡単調理の商品化に取り組んでいる。

スペインの農業協同組合は、「農家の農産物を共同選果によって付加価値をつけ販売することによって、最大の利益を組合員に還元する」とをモットーとしている。「利益を還元できない農協には加盟しない」など、農家が自由に選択できる協同組合の厳しさがある。そのため農協、連合会は農家の利益向上のために最大の努力が必要。アルメリア県では生産者の60%がグローバルGAP認証を取得しており、イギリス、ドイツ、フランス等輸出国毎に別な認証もある。この認証は最低限度の認証とされ、その理由は、輸出国やスーパーチェーンから「認証がなければ買いませんよ」が常識として取り組んでいる。



農協の購買店舗

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化(地域貢献)」に向け、JA十和田おいらせは「創造的JA自己改革」の取り組みを実践中です。



▲工事の安全を願い玉串を捧げる竹ヶ原組合長

生産拡大 所得増大
ファーマーズ・マーケット
起工式

～工事の安全祈願～

ファーマーズ・マーケット「かだあ〜れ」の造成工事起工式を2月13日、建設予定地の十和田市三本木里ノ沢で開きました。10月オープンを予定しています。

建設場所は国道4号線沿いで、造成面積が15,545㎡。付近は近隣の市や町につながるバイパスが交差し、病院、介護施設、学校などが立地し、当JAの野菜センターのアクセスも近い場所です。

出荷会員の目標人数は1,000人以上、売り場面積800㎡にJA管内の米、野菜、肉、魚介類などを揃え、販売する計画です。

起工式には工事関係者、JA役職員ら15人が出席し、工事の安全を祈願しました。

生産拡大 所得増大
総代の役割学ぶ

～初の総代研修会～

JA管内3カ所で2月17日から3日間、総代研修会を開きました。出席総代245人が、当JAの自己改革に向けた取り組みや総代の役割などを学びました。

総代は2019年8月に改選となり、総勢531人のうち、90人が新任で総代全体の11.7%にあたる62人が女性総代です。

研修会ではJA青森中央会経営対策部の渋谷亮教育研修課長が、総代と総代会の役割について「協同の力によって地域農業が発展し、地域の活性化につながる。総代は地域の組合員の願いを組合に届け、実現させるための働きかけや行動をとる役割を担っている」と述べました。



▲総代の役割を学ぶ

所得増大
カルビーポテトが表敬

～農家所得の増へ連携強化～

横浜町支店管内で生産する加工バレイショの取引先カルビーポテト(株)の中村一浩社長ら4人が2月3日、産地表敬訪問としてJA本店を訪れました。竹ヶ原幸光組合長、生産農家代表に2019年産の実績報告と次期作に向けた方針などを伝えました。

同社は、品種転換などによる品質と収量の向上を図り、国内産バレイショ100%の使用を目指しています。中村社長は「ポテトチップスの需要は伸びている。生産現場での一番の課題は省力化であり、大型機械導入等により、同社とJA・生産者が一体となって取り組んでいかなければならない」と強調しました。



▲カルビーポテト(株)の中村社長(写真中央)と懇談する竹ヶ原組合長ら

営農指導員と農家は絶大な信頼関係【農家の取り組み】

農家ホアン氏60歳を訪問。ジャンボピーマンとパプリカを栽培。面積は3畝で従業員が3人。定植は7月下旬。収穫は10月下旬から5月上旬まで。IPM栽培で天敵はカブリダニを主体にしている。

肥培管理は養液栽培。収穫が終了したら夏場はビニールで覆い、太陽熱消毒を行う。基本的には営農指導員の意向や市場動向に従う。

営農指導員から農薬散布の指示書が渡され、生産者は実施後、実際の散布日時、散布場所、倍率(量)等、散布した記録を返信している。営農指導員の指示は絶対なので指示された事を実行し、回答する。それを営農指導員が確認し、ERPアグロで栽培履歴を管理する。営農指導員も「指示した記録は大事」で今後の貴重な指導データとしている。

従業員は7月から5月の雇用契約で、働いていない時期は失業保険をもらう。時給840円で人種差別はない。就業時間は8時～15時30分で昼休み30分。月々土曜日までの6日出勤。農場管理の経費では人件費が一番高い。収量は8～10トン/10畝。販売額は2千9百万円。経営者は従業員の経費等を差引して720万円の所得であるが、規模を拡大するつもりもないという。



ホアン氏(園主)とローサ氏(営農指導員)

ホアン氏は、単協、連合会、自治体が主催する様々な教育プログラムやトレーニングに参加し農業を学んだ。グローバルGAP認証を取得して長い。初年度はとても苦労した。当時は現在のようなERPアグロのようなシステムがなかったため、苦労は理解できる。最初から完璧を目指すのではなく十分な教育、トレーニングを受けながら2～3年かけて今のようになった。営農指導員のローサ氏とは20年来的付き合いで、彼女は月2回程度訪れ、1時間程度の指導を受ける。8時～17時までの間に何かあればすぐ電話相談する。農業をやってきて、協同組合の中で自分が成長できたこと。自分一人ではここまで拡大も成長もできなかった。農協の存在、連合会ができてさらに良くなったという話に感動した。

結びに

スペイン・アルメリア地区の農業は、歴史は短い「めざましい発展」を遂げている。

販売力向上のため、農協を束ねる連合会が主体となり国際基準と品目に特化した選果場の整備充実とマーケティングを展開している。それらを総合的にシステム開発したヒスパテック社(システム会社)の存在などスペイン農業のため、ワンチームで弛まぬ努力を遂げてきた。

さて、日本の農業は、生産供給が国内需要を主体にし、国際基準を意識した販売戦略の認識は薄い。しかし、日本は高齢化、人口減少は明確で、貿易の自由化により輸入農産物は国民の胃袋に入り込み、日本の自給率は37%からさらに縮小していくであろう。

2020年はオリンピック・パリリンピック景気で国内経済の向上を想定しているが、一方で2月に発生した新型コロナウイルスによる影響で経済、食料の安全・安定供給を不透明にしている。

政府も農畜産物の輸出を奨励しているが、国内は国際基準に対応できる生産体制、選果施設は限られている。

日本の農畜産物は「食味がいい、品質がいい」と各産地は自負しているが、いざ輸出となると国際基準が障壁となり、グローバルな取り組みができない。



どの選果場も大規模

この研修を通じて、従来のJA単独の施設整備は、経営的に限界がある。今後は品目に特化した広域な連合会単位で、国際基準レベルの選果場を整備することが急務であり、輸出対応を可能とするグローバルGAP認証取得や、輸出によって国内の自給バランスを調整し、安定した農家所得が確保されるであろう。

スペイン農業は、日本農業と類似している。大きな違いは輸出がメインであること。我が地域でも広域な取り組みを考慮すれば輸出対応を含め、充分実現可能であると認識した研修であった。